授業科目　小児言語障害学 II

【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	言語
山岸　達弥	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○			○

【概要・一般目標：GIO】

言語発達障害の中で、学習障害、多動性障害、特異的言語発達障害などの特徴を学ぶ。
代表的な検査の実践を通して検査概要を理解する。また、検査結果の解釈の仕方を習得し、指導プログラムへの流れを理解する。

【学習目標】

1　言語発達障害に関する基礎知識を習得し、概説できる。
2　学習障害、多動性障害、特異的言語発達障害などの臨床像を把握し、説明できる。
3　各障害の評価・訓練を学び、その要点を説明できる。
4　言語聴覚士と発達障害児の生活面でのかかわりを学び、実態について説明できる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	言語発達障害オリエンテーション　言語発達障害の概要と関連領域	1	講義
2	学習障害	2	講義
3	学習障害	2	講義 VTR
4	多動性障害他	2	講義
5	多動性障害他	2	講義 VTR
6	検査の種類と実際（1）WISC-III	3-4	講義
7	検査の種類と実際（2）WISC-III	3-4	講義 演習
8	検査の種類と実際（3）WISC-III	3-4	演習
9	検査の種類と実際（4）WISC-III	3-4	演習
10	検査の種類と実際（5）WISC-III	3-4	演習
11	検査の種類と実際（6）WISC-III	3-4	講義
12	特異的言語発達障害など	3	講義 VTR
13	臨床現場の実際	3	講義
14	検査結果の解釈と支援プログラム	2	講義
15	まとめ	2	講義

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）	言語聴覚士のための言語発達障害	石田宏代、大石敬子	医歯薬出版	2008・4,400 円＋税
参考書	WISC-III アセスメント事例集 －理論と実際 －		日本文化社	2005・3,400 円＋税
その他の資料	プリント			

【評価方法】
出席，レポート，発表内容および定期試験等で評価する。

【履修上の留意点】